（別添資料１）

事業所名　放課後等デイサービス　Eight Yamagata

支援プログラム

作成日　2026　1　1

法人（事業所）理念	「自立のための経験をもっと」 障がいのあるなしにかかわらず、すべての人が無限の可能性を信じ、「自ら選んで動く」経験を重ねながら、自分の人生を選び、決めるための「生きる力」を育む。 一人ひとりが自分らしく、仲間や社会と繋がる喜びを感じられる、楽しくてワクワクする場所を目指す。			
支援方針	１．【実態把握】多角的な児童理解に基づく丁寧なアセスメントの実施 子どもの姿を多角的に捉え、深く理解することをすべての支援の起点とする。児童の表面的な行動のみに囚われず、その背景にある困難さや、声にならない意思表示・要求、内に秘めた「好き・得意（強み）」を専門的な視点で丁寧に見極め、個々の実態を的確に把握する。 ２．【環境設定】専門的知見に基づく意図的な環境構造化 特別支援教育の専門性に基づき、緻密に設計された環境設定を行う。「ダイナミックに遊ぶ・本物に触れる・自然に触れる・仲間や地域と関わる」の4つの柱を軸に、児童の心が動く豊かな経験の中に「学びのきっかけ」が自然と生まれるよう、視覚的な構造化や適切な素材・動線の選定を行う。 ３．【関わり方の工夫】楽しさの中で自然な変容を引き出す伴走支援 児童にとっては「楽しくてワクワクする場所」であることを最優先とする。指導者が指示的に介入するのではなく、個々の特性に応じた声かけのタイミング、言葉の選択、トーンを専門的な視点で工夫する。失敗や迷いも含めたプロセスを温かく受容し、指導者が黒子として適切な関わり方をコントロールすることで、児童の主体的な変容と、自然とよい姿が溢れ出る瞬間をそっと後押しする。			
営業時間	9 時 0 分から 18 時 0 分まで		送迎実施の有無	☑ あり　☐ なし
	支　援　内　容			
本人支援　健康・生活	生活リズムや体調、気持ちの変化を把握し、安心して過ごせる環境を整える。 調理、買い物、食事、片付け、歯磨き指導等の実体験を通して、健康への意識と、自分で選び生活する力を育む。			
本人支援　運動・感覚	屋内外の遊びや運動、山登り・自然散策、制作等を通して、体力、姿勢・身体の使い方、手指の巧緻性や感覚に応じた経験を広げる。 感覚刺激の調整や休息できる場所を用意し、一人ひとりに合った参加方法を工夫する。			
本人支援　認知・行動	子どもの得意・苦手や情報の受け取り方を把握し、視覚的な手順、活動の構造化、課題量の調整等を行う。 工作、調理、学習、社会見学等を通じて、見通しを立てる、試す、振り返る、状況に応じて方法を変える経験を支える。			
本人支援　言語コミュニケーション	言葉だけでなく、表情、身振り、絵や文字等、一人ひとりに合った表現を尊重する。 日常の対話や遊びの中で、気持ちや希望を伝える、相手の話を聞く、援助を求める、断る・相談するなどのコミュニケーションを支援する。			
本人支援　人間関係社会性	安心できる大人との関係を土台に、少人数から集団へと関わりを広げる。共同制作、役割分担、公民館との協働や地域行事への参加等を通じ、違いを認め、相談・協力する経験を重ねる。 本人の意思とペースを尊重する。			
家族支援	送迎時や面談等で家庭での様子や保護者の思いを共有し、子どもの強みや行動の背景を一緒に整理します。家庭で実践しやすい環境調整・関わり方を提案し、必要に応じて相談支援事業所等と連携します。		移行支援	学校・進路先等と本人・保護者の意向を共有し、進級・進学・卒業等の節目に必要な情報を引き継ぎます。生活や社会参加の体験を重ね、将来の選択肢を広げる支援を行う。
地域支援・地域連携	学校、相談支援事業所、関係機関と情報共有・連携を行う。 地域の公共施設や店舗・団体と協働し、地域の祭りや文化行事や社会見学を通じて、子どもが地域の一員として参加し、多様な人と関わる機会をつくる。		職員の質の向上	支援会議、ケース検討、日々の振り返りを通じて支援方法を見直す。発達特性、権利擁護、虐待防止、身体拘束適正化、安全管理、感染症対策、防災等に関する研修・訓練を計画的に実施する。
主な行事等	調理・買い物などの生活体験、社会見学・体力づくりや自然体験、地域の公共施設との協働活動、地域の祭り・文化行事への参加・交流。 子どもの興味や特性、安全面に配慮し、年間計画等に基づき実施する。			